



大量の土砂の堆積で干上がった雨畑ダムのダム湖。本村集落(右上)の住民は危機感を募らす=26日、山梨県早川町(本社ヘリ「ジェリコ1号」から)

# 山梨・雨畑川 本社ルポ



## 埋まるダム 迫る危機 上流側集落 浸水被害も

駿河湾産サクラエビの不漁問題で、早川水系の濁りの一因として注目される日本軽金属の発電用貯水ダム「雨畑ダム」(山梨県早川町)。ダム下流の雨畑川では汚泥やコンクリートの産業廃棄物の不法投棄が発覚する一方、ダムそのものも堆砂率が93・4%(2016年度)に達し、ほぼ埋まった状態。著しい堆砂は昨秋、上流側の集落に浸水被害をもたらした。今月、上空から状況を確認し、現地を訪ね歩いた。

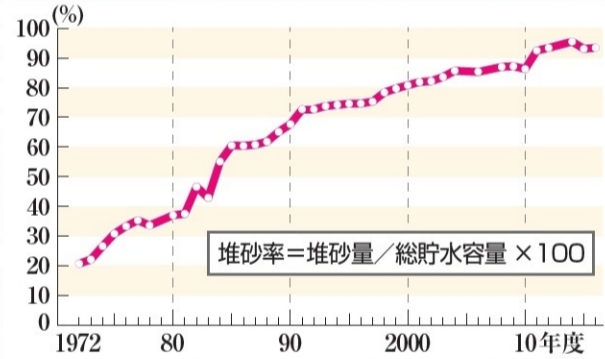
— 関連記事30面、住民意識調査詳報10面へ



静岡市から北へ約50キロ。日本一人口の少ない湖はわずかで、上り町、早川町。山々の流は間もなく干上がりに雨畑ダムが見える。辺り一面の土砂は

静岡市から北へ約50キロ。緑に濁ったダム。雨畑地区の中でも最も川からの影響を受けやすい場所にある本村

日本軽金属 雨畑ダムの堆砂率の経年変化



「濁流とともに、大きな石がゴロンゴロンと転がる音が聞こえ

た」と70代女性。大雨のたびに町外の親戚宅に自主避難するとい

「ダムを誰が管理しているのか知らないが、早く安心して暮らせるようにしてほしい」と切実だ。集落と対岸を結ぶつり橋は土砂にのみ込まれる寸前。ダム湖には橋脚上部まで埋まった奥沢橋もあり、かつてそこが谷だったことは想像しにくい。

雨畑ダムから約5キロ。古くは修験者が往来し、竜神様をまつる「聖域」。ここに国土交通省が02年に整備し「東洋一の規模」と称された稲又第三砂防堰堤(えんてい)がある。この堰堤上流も上空から見ると大量の土砂に埋まる。

駿河湾に注ぐ濁り水の源をたどると、そこには、先代が「地域活性化のため」と受け入れたダムの負の遺産に耐え忍ぶしかない住民の姿があった。

雨畑ダム(山梨県早川町)に日本軽金属が所有する「自家発電」用のアチ式ダム。同社「三十一年史」によると、地元

の陳情を背景に1965年着工。「困難な地質条件」のもと2年で完成。日本のアルミニウム製錬の一翼を担った同社蒲原製造所(静岡市清水区)に電力供給。一方、同社などによると、活発な土砂流入で100年分の設計堆積量にわずか10年で達し、総貯水量の9割以上が埋まる。